



- 2. 総会並びに所長研修会
- 3. 第63回静岡県保育研究大会
- 4. 各分科会報告
- 12. 県保育研究大会に参加して
- 14. 令和5年度新規採用予定職員研修会
- 17. 海外交流研修に参加して
- 18. 新規採用職員研修会
- 19. 青年部会全体集会・研修会
- 20. 新知事と懇談
- 21. 支部だより
- 22. 委員会報告



令和6年度

# 静岡県保育連合会総会 並びに所長研修会 開催

期日 令和六年六月二十一日  
会場 静岡市 グランシップ

令和六年六月二十一日、静岡市のグランシップにおいて「令和六年度静岡県保育連合会総会並びに所長研修会」が行なわれました。当日は、静岡県健康福祉部少子化対策担当理事高橋真一朗様、静岡県社会福祉協議会常務理事藤原学様、静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課長松本文様をご来賓としてお迎え開催されました。



最初に連合会の土山会長より、能登半島地震のお見舞金について感謝が伝えられ、続いて、近年の少子化の問題、職員配置基準の見直し、法人の制度改革、退職金制度について、また、今後始まる「こども誰でも通園制度」について現時点での問題点などをお話しいただきました。これ

からも県保

連としては、制度改革や運営について、また保育の質の向上について、県内の保育所、認定こども園などに通うすべての子どものため、そこに働くすべての職員の笑顔のために会員の皆さんと一緒に少しでも良い方に向けて行けるように最大限の努力をさせていただきますと挨拶されました。

その後、高橋理事、藤原常務理事からもご祝辞をいただきました。

次に総会に移り、定款の規定により会長が議長となり議事が進行されました。議案として第一号議案 令和五年度事業報告及び決算について、第二号議案 定款変更について、第三号議案 役員の見直しについて、また、報告事項として令和六年度の事業計画及び当初予算について報告がありました。



されました。講師には社会福祉法人日本保育協会理事長の吉田学氏をお招きして「こども・子育て・保育をワクワクさせよう」というテーマで一時間半にわたりご講演いただきました。

講演の中で、人口減少・少子高齢化が進む社会の中で子どもも施策がどのように進んでいくかを過去の流れを踏まえながら説明していただきました。また、地域人口が急減し「こどもまんなか」社会が掲げられる中、様々な展開する動きをどう受け止め、どう対応するか。また、「こども」「子育て家庭支援」「保育園・認定こども園の経営」それぞれの視点を意識した上で、具体的に何から取り組むのか、「保育のプロ」として実践を通じて何を発信して行けばよいかを考えたのがご講義でした。



## 第六十三回

# 静岡県保育研究大会

令和六年一月二十五日  
静岡市 グランシップ

## 速報

### 「第六四回

関東ブロック保育研究大会

新潟大会」  
開催される

一月二十五日グランシップに於いて、二〇二三年度静岡県保育研究大会が開催されました。一般参加者三四九名を、一一四名の大会運営関係者により迎え、いよいよ開幕。

中ホールでの開会式では、ピアノの伴奏にあわせて県保育士会中原直子副会長により児童憲章が朗読され、土山雅之運営委員長により挨拶に続き、開催地静岡市の橋本隆夫こども未来局長様、県健康福祉部高橋真一朗こども未来局長様、県社会福祉協議会高橋邦典常務理事様からそれぞれにご祝辞を頂戴し、各会場に分かれ分科会の時間が始まりました。

八つに分かれた各分科会それぞれで東部・

中部・西部

各地の実践発表がなされ、日頃こどもを真ん中にしながら学びつつ、保育者自身も集団の中で共に育ち合っていることが伝わる熱い内容となっています。



た。またそこに伴走者として寄り添う助言者の適切なアドバイスにより、この場をより質の高いものに昇華して頂きました。一般参加者からの質疑も活発に行われ、午前中になされた発表だけでは気づけなかった部分には、丁寧な回答が引き出され深い学びに繋げることが出来ました。どの発表も甲乙つけ難い中、新潟市で開催される関東ブロック保育研究大会へ派遣される議長・発表者が選抜されました。

閉会式では今大会の研究成果を広く内外に伝えるために「大会宣言」が採択されました。この一日を通して、年始一日に起こりました能登半島地震復興への支援を目的とした義援金が広く呼びかけられ、たくさんのご協力をいただきました。

今大会の盛行に関わっていただいた皆さま、各園の現場を守っていただいた皆さま、まに心から感謝申し上げます。これからも子どもを真ん中に語り合っていくきましょう。



令和六年七月四・五日に新潟市において、関東ブロック十五都県市より一〇七五名が参加し、標記の大会が開催されました。

静岡県からは、「第六十三回静岡県保育研究大会」に於いて選出された、第七分科会議長 中郷南保育園 瀬川尊也園長、発表者には、第一分科会の西貝保育園 多田智子先生、第六分科会の勝間田保育園 朝比奈いずみ園長が代表者として登壇されました。

結果、関東ブロック各都県市から選出された素晴らしい研究発表の中から、第六分科会の発表者である、勝間田保育園 朝比奈いずみ園長が令和六年十月十七・十八日に開催される「第六七回全国保育研究大会 奈良大会」に選出されました。



(※県大会表彰時の写真)

## 第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践

～すべての子どもにむけて～】

発表者 ①富士宮市立西保育園

保育士 伏見 千歌

②静岡市 清水りんぼかんこども園

保育教諭 東海 百華

③磐田市 西貝保育園

保育士 多田 智子

議長 三島市立伊豆野保育園

園長 長澤はるみ

助言者 静岡県立大学短期大学部

部長 永倉みゆき

記録者 三島市立錦田保育園

園長 川口 佳子

発表① 子どもと保育者の心を育てる保育

「かもしれない保育」は共主体のはじまり

富士宮市立保育園では、今後より良く生きる力を育むために子どもと保育者の心を育てる保育が必要と考え、保育の大切な姿勢（思考）を「かもしれない保育」と名付け、実践し、エピソード記述やWEB図を用い、検証してきた。子どもの思いに寄り添い、何事も断定せず「かもしれない」と肯定的で想像が膨らむような声掛けをすることで、主体的な遊びが広がり、心を揺さぶられるような体

験を繰り返すことが、子どもと保育者の共主体のはじまりであるとわかった。楽しみながら子どもと保育者の心を育てる保育を実践し続けていきたい。

発表② 「子どもの思いに寄り添って」

子どもの視線の先を見つめて

静岡市清水区の私立保育園・こども園では、「子どもの思いに寄り添って」をテーマのもと、子どもの心の育ちについて研究に取り組んだ。子どもの気づきや発見したことに寄り添い共感し、子どもの視線にもう一度注目し、「子どもの視線の先を見つめて」をテーマに実践し、記録を取り、その実践記録を持ち寄り話し合いをし、考えを深めてきた。私たち保育者はこどもの気づきを大切にとらえること、子どもが自ら体験する力や諦めない力がさらなる育ちへとつながるように意識しながら子どもと向き合っていきたい。

発表③ 『人とふれあえる遊び・わらべうた』

いわた保育士会研究会では、新型コロナウイルスの流行により人と触れ合う機会が減っているのではないかと考え、遊びを通して人と触れ合う楽しさや心地よさを感じてもらいたいという思いから「人とふれあえる遊び」として「わらべうた」を保育に取り入れた。参考文献を用い知識を深め、各園で実践をし、検討をくりかえしてきた。わらべうたを始めると一緒にふれあいを楽しみ、「次は自分の番」と期待したり、仕草や言葉で「もっとや

って」と求めるようになった。さらにわらべうたの知識を広げ、保育に活かせるようにしていきたい。

助言者より

「新型コロナウイルスの拡大やICTの活用の弊害があるかもしれない」という前提に、コミュニケーション能力の低下を想定していた。リモートが明け、対面になったことで、対面しかできないよさがわかったということである。これからの「新たな時代」は、心を育てることがより大切であり、外国籍の子や様々なタイプの子などの多様性を認め、異年齢の良さ、少人数性の良さなどいろいろな保育を広げて行ってほしい。また『STEM教育』を推進し、乳幼児期から自然の中に科学性を見出してほしい。



## 第二分科会

テーマ【配慮を必要とする  
子どもや家庭への支援】

発表者

①富士市 すみれ認定こども園

園長 後藤 恭佑

②焼津市 焼津市保育園協会障がい児

保育部会なかよし保育園

保育士 田宮 洋美

③浜松市 はらっぱ保育園

保育士 米山 明奈

議長 富士市 中里保育園

園長 青野 貴芳

助言者 静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者 静岡市 清水みらい保育園

園長 伊澤こずえ

発表① 睡眠時に気になる子の特徴、睡眠か

らみる気になる子へのアプローチ

八年前から全園児に睡眠アンケートを実施し生活習慣の把握をしている。家庭での睡眠時間と午睡時間の見直しをした四歳児クラスの実践を通して気づきがあった。気になる児童は様々な要因や先天的な物がある中で、各家庭環境の中で生活習慣を安定化し、睡眠や食事の確保を是正するだけで、改善がみられる事が分かった。配慮を必要とする子どもや家庭への支援を家庭で出来る事、園で出来る

事とを分けて考え取り組んだ実践から、クラス全体を通して取り組んだ事が結果的に配慮を必要な子にとっての支援になると感じた。

発表② 子どもの育ちを支えるために

～保育者が対応に戸惑う時～

焼津市保育園協会では十三ヶ園の保育士が集まりテーマを決めグループワークを通して学んでいる。

実践をもとにした話し合いを通して、三つのポイントに焦点を絞ることができた。①園全体で子どもを育てていくこと②日々の子ども楽しいと思える時間を増やす③なぜそのような行動をとったのか取らざるを得ないのか。保育者の子どもの思い、関わり方が子ども一人一人の言動に影響を与え、子どもが魅せる育ちの姿にも変化が生まれ、確かな発達に繋がることを感じた。改めて育ちの伴走者としての専門性の意義を実感することができた。

発表③ 安心して通える居場所づくりから

途中入所してきた二歳児の支援と家庭への支援の実践から学んだ事をまとめた。

最初に本児を知る所から始め「すき」を沢山見つけながら気持ちに寄り添い、安心して生活する事を大事にしてきた。中でも思い通りにならないと怒って暴れる姿やパニックになって泣く事もあった。

その時「どうしよう」と心を立て直すきっかけを一緒に探ったり、時に自分で見つける

等大人の援助を支えにまた次へと向かう経験を積み重ねてきた。保護者の不安な気持ちを受け入れ、出来ないことは無理強いせずに受け止めて園でフォローをすることで保護者にとって園が安心できる居場所へと変わった。

助言者より

二十年前は「直さなくてはいけない」だったが、今は「その子の持っている物を生かしながら、その子にお互いが合わせていく」支援が常識になっていく。その子の育ちを守っていく為には、一人一人の事例検討と擦り合わせし個々の目標を共有して支援につなげる。支援目標の方法や適切性の判断は、丁寧に支援した手応え。キーワードは「答えは子どもが持っている」そして「保護者支援とは「保護者の生涯発達に寄り添いながらお手伝いをする仕事」保護者を完成した大人と見ずお互い未完成な大人同士として支援をしていく。



## 第三分科会

テーマ 【保育者の資質向上を図り、

保育現場の魅力を発信する】

発表者 ①伊豆の国市 ちとせ保育園

園長 小林弘之介

②静岡市 新富町こども園

園長 柴田 尋子

③袋井市 明和第二保育園

園長 加藤 千晶

議長 浜松市 平和こども園

園長 矢野 尚美

助言者 常葉大学保育学部

教授 山本 睦

記録者 浜松市 平和こども園

副園長 鈴木 真澄

発表① 研修参加によるポイント制度・職場

環境の改善

外部研修等への自主的な参加を促すため、研修参加によるポイント制を制定し、翌年度の昇給に結び付くようにした（七名が昇給）。研修内容を報告・実践することにより、職場全体のスキルアップを図った。また、働きやすい環境づくりのため『有給休暇の計画的取得（現在取得率八五％）』『保育補助者（保育士資格等の無資格者）の雇用』『書類等の作成時間の確保』を行った。その結果、職員の離職率の低下（過去五年間0％）に繋がった。

発表② 繋げよう！広げよう！

保育のすばらしさを次世代へ！

人手不足が切実な問題となっているが、不適切保育の報道などにより、保育の仕事我希望する学生が減っている。次世代への架け橋になればと中学生や高校生の職場体験を積極的に受け入れている。自分が体験したことを校内新聞に見せてくれた学生、朝は緊張した様子だったが、帰りには笑顔で帰っていた男子学生など、受け入れてよかったと感じることが多々あった。これが未来に繋がることを願い、これからも保育者が生き生きと働ける環境づくりに努めていきたい。

発表③ 子どもの姿を振り返り、

語り合う風土

日常の些細なことを言葉にしたり、職員会議で情報共有したりすることにより、コミュニケーションが図られ、物事をポジティブにとらえることができるようになった。また、園長との個人面談を年二〜三回行い、意思疎通に心がけた。保護者との情報共有ツールとして、連絡帳や送迎時の会話、動画配信を利用した。相互理解を深めることにより信頼関係が構築され、職員のモチベーションアップにもつながった。園で取り組むべきことを丁寧に言い、職員の連携をより強くすることが、資質向上に繋がると感じている。

助言者より

英国では保育士の資格制度が変わり、パー

トタイムであっても正規職員と同じ待遇が受けられるため、自分の子育てをしながら働くことが可能になった。そのため、自分の専門性を向上させようという意識が高まり、保育者全体の資質向上や就業継続につながった。また、子どもたちには自分の好きなものごとを追求できる環境を設定し、新しい学習指導要領のアクティブラーニングの基礎となっている。皆さんもカリキュラムマネジメントに取り組み、子どもを見る視点を各園で話し合ってもらいたい。それが園の強みとなり魅力となるので、外部に発信してほしい。



## 第四分科会

テーマ【地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて】

発表者 ①御殿場市 みらい保育園  
保育士 中川かおり

②静岡市 いさみ保育園

主任 酒井 祥代

③湖西市 真愛保育園

園長 杉江 玲子

議長 小山町 菜の花こども園

園長 田代志のぶ

助言者 静岡福祉大学子ども学部

教授 永田恵美子

記録者 小山町 町立きたごっこども園

園長 斎藤 美栄

発表① 地域の子育て家庭への支援の充実に

むけて コロナ禍を経て親子が安心して過ごせる子育てサポート

コロナ禍を経て在園児や一時保育利用保護者にアンケートを実施した結果「感染への不安」「孤独への不安」「生活への不安」があることが分かった。子育て中の親子がコロナ禍の中で安心して過ごせる環境とは何か、保育者ができるサポートについて三つのことにポイント絞って取り組んだ。①子育てサポート環境やおもちゃ提供の仕方、活動内容の見直し②保護者に向けての発信（つぶやきコー

ナーの設置や成長カレンダー等)③子育て家庭との関わり方や支援の在り方を試みた。結果、保護者が不安や迷いを表出しやすくなり、保護者同士のコミュニケーションを深められ、思いに寄り添うことで園生活への興味も深まった。

発表② 地域の子育て家庭への支援の充実に

むけて SNSを利用した地域のつながりと子育て支援のあり方

地域の子育て家庭はどのような支援をもとめているのか、園でできる支援のあり方を考え研究を進めた。「おしゃべりサロン」の内容を見直し、その都度アンケートをして子育て家庭の知りたい事や、やりたい事を理解し、要望等を次回に反映させていくことや、「わらべうた」「離乳食レシピ」の情報発信する等子育て家庭が求めていることを活動に取り入れ、改善することができた。

また、SNSを活用することで、保護者が園生活に関心を示し、親子の会話や関わりがきっかけになるような取り組みができた。

発表③ 地域の子育て家庭への支援の充実に

むけて しんあいつこクラブってどんなところ？

園で行っている子育て支援のあり方を考え直すところからスタートし、真愛保育園を知ってもらおうという意味も込めて、地域に向けての子育て支援事業を開始した。まず、チラシを地域回覧板や小児科、子育て支援センタ

ーに設置したり、積極的に声をかけていくことで次第に利用する親子が増えた。クラブの「のんびり」「ゆったり」の雰囲気も大切にしつつ、保育園ならではの環境や物、人材、アイデアを活かし、保護者と保護者を繋げる役割や、必要とされる支援のあり方を今後も進めていきたい。

助言者より

園の立地状況・家庭環境・地域特性、コロナ禍の影響として人間関係の希薄さを感じられる今日、今回の研修で子育て支援の取り組みについて三つのことが見えてきた。①保護者の思いの表出や保護者同士をつなげる②SNSなど視覚的情報の使い方を考えながら活用③地域資源をいかに使うか？今後も私たちは地域をつなぐ「つなぎ役」として子育て力をあげ、保護者に丁寧に対応を心がけて支えていきたい。



## 第五分科会

テーマ【子どものより良い育ちと安全・安心  
の環境づくりにむけた関係機関とのネ  
ットワーク】

発表者 ①伊東市 つくし保育園

園長 澤井伊佐子

②静岡市立瀬名こども園

園長 増田 寿子

③浜松市 マーガレット保育園

保育士 大橋 美弥

議長 吉田町立わかば保育園

園長 増田 靖子

助言者 常葉大学健康プロデュース学部

准教授 中村 俊哉

記録者 吉田町立さゆり保育園

園長補佐 長尾 慶子

**発表① 個々を大切にしながら安心して就学  
できるための様々な機関とのつながり**

就学に向けて他機関とのつながりを深め、  
安心して就学できるよう研修を行う。まず、  
子どもの育ちや、保護者の不安を解消するた  
めに、園内で話し合いを行い、必要であれば  
巡回相談など、様々な関係機関と情報交換  
し、アドバイスを受け、保育の幅を広げてい  
る。また、市内の十三施設の園長で、園長会  
を行い情報共有したり、歳見別での職員交流

や保幼小や、小学校別の五歳児の交流等を行  
い、法人全体で問題検討するなど協力体制の  
もと、個の育ちを大切に、よりよい就学につ  
ながるように取り組んでいる。

**発表② 小中学校・園医との連携**

コロナ禍でコミュニケーションや体験の場  
が減り、子どもの生活や遊びではICT化が  
日常のものとなってきている。園での教育保  
育の中にどのようにICTを取り入れていく  
か模索が始まっている。小中学校では、タブ  
レットが導入される中「メディアコントロール  
ルーラー」を家庭と連携して進めている。保育  
園でもメディアとの関わりを正しくコントロ  
ールする気持ちを育てることの重要性を感  
じ、アンケート調査を行いながらメディアと  
の関わり方の意識を高めている。

**発表③ 安定・安心・安全の環境作りのため  
の地域連携**

海の近くで津波の危険性がある立地のため、  
近隣企業や地域ボランティア、小学校と  
連携して、合同避難訓練を行っている。安心  
安全の環境作りのために、各機関の連携が必  
要であり、いざという時の助けとなり、避難  
先を増やすために、地域の住民フェスティバ  
ルを実施し、園を知ってもらう活動を行い、  
交流を深めている。子ども達も、地域との様々  
な共通体験で、大人に見守られていることを  
体感している。今後も安心して過ごせる環境  
を作っていくたい。

**助言者より**

同じ研究をしていても、考えや価値観が違  
い、多面的視点から話が聞けて良かった。様々  
な関係機関との関わりで一緒に協力して取り  
組んでいくことは、信頼関係ができ、とても  
大事である。子ども達が安全安心に就学する  
ために、保幼小の連携が大切である。十の姿  
を引き継ぎ、またICT化により、メディア  
と正しくかわる力、自己コントロール力を  
保育園からつけていくことなど、保幼小との  
つながりをもって同じことをやっていくポト  
ムアップが必要である。そのためにも、資質  
能力の向上がとても大事である。小学校との  
つながりが、これからも発展していくと思わ  
れる。



## 第六分科会

テーマ【家庭や地域との連携による  
食育の推進】

発表者 ①沼津市立戸田こども園

保育教諭 鳥谷部まりえ

②牧之原市 勝間田保育園

保育士 古川 佳奈

③掛川市立すこやかこども園

保育教諭 野村 純子

議長 菊川市 菊川保育園

園長 松村 成子

助言者 NPO法人 子どもの森

理事長 吉田 隆子

記録者 菊川市 菊川保育園

主任 沢田 政子

発表① 戸田の良さを生かした保育・  
地域で育つ 家庭で育つ へだっこ

保育目標に「たくさんの体験をして自ら気づく子」を掲げ、戸田の地域産業や特産物を活かした食育カリキュラムをもとに食育活動を実践して行った。家庭や地域と関わりながらの食育活動から、子ども達に、探究心・感謝の気持ち・周りの環境に目を向け自然を大切にしようとする気持ちが生まれ、達成感や自信が育まれている。また、地域の方々との交流は、双方に存在の大切さを気付かせる機会となり、自分の育つ地域への関心にも繋が

っている。

発表② ドキドキ、ワクワク  
みんなで楽しむ食育活動を通して

保護者のほとんどが農業に携わっており、栽培や収穫が生活に密着した環境で育つ子ども達にとっては、園で行う食育活動に物珍しさはなく、興味関心の薄さが課題となっていた。そこで、保育士・保護者・地域の方が協力して、子ども達が、ドキドキ・ワクワクする活動をしようとして、今まで育てたことのない野菜の栽培に挑戦した。名前も初めて聞く野菜の、種まきから収穫、味わうまでを経験し、子どもと保育者、保護者が、地域の方々を巻き込んで楽しみ、驚きや発見を共有することができた。

発表③ 畑をなんとかしようから始  
まった子ども主体の菜園活  
動

「大きな畑が欲しい」という子ども達の思いから、地域の方との出会いを大切にした取り組みが始まった。「どうする?」「どうしたい?」と投げ掛け、共に考えて、じゃがいもの植え付けから収穫、カレーパーティーの企画開催へと一連の流れに沿って丁寧に進めてきたことが、子どもの主体性や、力を合わせて一つの事を成し遂げていく楽しさに繋がった。家庭や給食の先生との応答的

な関わり、地域と連携した活動は、食だけに止まらず、人への感謝や心が通い合う喜びをもたらしした。

助言者より

各園それぞれに、地域の物的・人的資源を活かし、身近な環境の中で実体験を通して「食べたい気持ち」を育んでもらいたい。保育者として、子どもたちが経験の中で五感を働かせて感じ、返って来る反応、つぶやきや疑問に耳を傾け、そこに寄り添った食育活動を展開して行くよう心掛けて行きたい。

また、昨今の咀嚼、嚥下機能の低下がもたらす心身へのデメリットは大きい。その前提となる食べる姿勢の確立にも力を注ぎたい。同時に、日本の文化であるお箸と器の持ち方も、幼児期から大切な事として伝えて行きたい。



## 第七分科会

テーマ【保育の社会化にむけて～保育の営みをいかに社会に発信するか～】

発表者 ①富士宮市 外神あけぼの保育園

副園長 石川小百合

②静岡市 市立小島こども園

園長 丸山 智子

③御前崎市 高松保育園

副園長 沖 恵子

議長 三島市 中郷南保育園

園長 瀬川 尊也

助言者 常葉大学短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者 富士市 富士保育園

園長 後藤 匡

### 発表① 地域に根差した保育園をめざして

地域高齢化やコロナ禍で、地域の方との繋がりが減り、保育園の取り組みを発信する機会も減った。近隣の方々の日頃からの声掛けや交流が園児の社会性を育み、地域に根差した園になっていくと考え、情報発信について話し合い取り組みを行った。地域へのお便りの回覧と掲示では、関りが薄くなっていた地域の中で園の存在をまた意識してもらえようになった。職員・保護者へのアンケートではアナログで伝える良さと共に時代に合った発信方法の必要も感じた。日々の園の様子

や園児の活動を伝えていく事に囚われずに保育園の職員が日頃、何を行っているか保育の営みを周囲に知ってもらい安心感を持ってもらう事に繋がればと思う。

### 発表② 地域と共に

静岡市公立こども園清水十二支部では、自然豊かな地域の中で地域の特徴を生かす保育を積極的に行っていたが、コロナ禍により地域との関係性が希薄になり、今までの取り組みを精選する機会となった。地域の人と応答性のある繋がりの中で地域の様々な伝統や文化、環境資源を知り、興味関心を持つ活動を進め。地域の方との交流活動をブランドデザインに位置づけし、幼児教育保育について理解してもらい進んで協力してもらおうきっかけを作り、ふれあいを積み重ねながら、地域に根差した園になるよう取り組んでいきたい。

### 発表③ 繋がりがこそ大切に

御前崎市の西部の園外散歩にも恵まれた場所に位置し、人を育てることは人にしか出来ないと感じ、「繋がりを」をサブテーマに取り組んだ。地域の方と繋がる機会を増やし、繋がることの大切さに気付ける活動の展開として園児と共に行う活動と職員の資質向上に視点を置き、地域の方とのふれあい計画を行い。多くの方に支えられ運営されている事を再確認し、繋がりを大切にしていくには、保育者が子ども達にどう伝えるか、背景や想いに気づかせていく事が大切だと感じた。また掲示

板等で保育が伝わるような掲載内容の充実も身近な人達にこそエピソードを伝えたいが社会への発信はまだ検討が必要と感じる。

### 助言者より

第七分科会では平成二十五年からこのテーマを扱い、いい意味で原点に戻ったと感じる。大きく社会化に向けて色々なアプローチを報告してきたが、今回、発表園が図らずも地域や繋がりを運び、実践を行ってきたことは時代や環境変化の節目になると感じる。保育の内容・意図をどういう風に伝えるか、単なる活動報告で終わるのではなく、そこをスタートとして子どもの育ちをいかに支えて、年齢に応じた発達や保育内容・意図をどう保護者に伝えるかということ、また手間かもしれないが地域へのものと発信する内容は違うべきで使い方も考えていく必要がある。



## 第八分科会

テーマ【公立保育所・公立認定こども園等の  
使命と地域社会での役割】

発表者 ①清水町立南保育所

所長 下川原あゆみ

②藤枝市立岡部みわ保育園

園長 白鷺 朱美

③浜松市立可美保育園

園長 池内 結子

議長 静岡市立原こども園

園長 岸端 宏美

助言者 静岡英和学院大学 人間社会学部

静岡福祉大学 こども学部

非常勤講師 徳浪 芳江

記録者 静岡市立田町こども園

園長 興津 友紀

発表① 地域を愛し、地域に愛され、地域に

返り、地域に根づく湧水の子をめざ  
して

ひとりひとりの特性にあったきめ細やかな  
保育を行うため、園内外での研修や長泉町と  
の人事交流を開始し、スクールカウンセラー  
等関係機関との連携を図り、保育を振り返り  
保育に活かすことをしている。また、地域の  
高校生と遊んだり、近所の方と野菜の栽培や  
収穫をしたり、町のキャラクター「ゆうすい  
くん」も保育に取り入れ、やりとりを楽しむ

経験を積み地域への関心や愛着心が育まれて  
いる。さらに、ガキ大将育成プロジェクトと  
称し異年齢活動の中で多くの子どもや保育者  
と関わることで様々な遊びの展開・充実が感  
じられる。保育の基本を振り返った取り組み  
が保育力向上につながっている

発表② 保育の専門性向上に向けた人材育成  
と地域連携について

楽しみながら動く事を通して、からだ・こ  
ころ・あたまの調和のとれた発達を促すムー  
ブメント教育療法を保育に取り入れている。  
この活動の公開や研修を行い、こどもの姿を  
多面的に捉え「読み取る力」の向上に繋がっ  
ている。また、「現状把握表」を使いこども  
の現状を整理する。それを職員が共有し個別  
支援計画を作成する中で、視点の変化と共に  
支援が広がり、クラスの枠を超えたチーム支  
援を実感できる場面が増えている。地域の保  
育・教育施設と情報共有し、互いの園の保育  
を伝え研修を行い、気軽に相談できる関係性  
を築き学びあっている。

発表③ 要保護・要支援児等の受入れと支援

各園長に公立の使命についてアンケートを  
行うと「専門機関や行政との繋がりが」「公共  
性・公平性の保育」「要支援児の積極的な受  
け入れ」が多かった。発達支援において園の  
中心となる基幹的職員は研修を受け、園内の  
保育・対応を担っているが、更に向上する為、  
関心を持つ職員と研修時間を増やす等、今後

の取り組み方が重要となる。また療育専門の  
職員の園訪問や児童相談所との人事異動から  
スキルアップを図りパイプ役を担う事もして  
いる。強みを活かし繋がりを強化していく。

助言者より

保護者は子どもにも地域を愛して欲しいと  
願いを持っている。生きていく上で心の故郷  
となる安心できる温かさを、小さい時に感じ  
る活動が行われている。職員から地域に向け  
積極的コミュニケーション  
ケースョンを図っ  
ていくと、園・こ  
ども理解につなが  
り、良い関係が築  
かれ関りの機会を  
増やす事が出来て  
いく。

こどもが面白が  
ってやる・職員が  
保育を見て欲しい  
と言えるのはバイ  
オサイコソーシャ  
ルが育くまれてい  
るという事。皆で  
認め合い育ちあえ  
るのが良い。公立  
の価値を見出しプ  
ライドと自信を持  
ち務めていけると  
良い。



# 県保育研究大会に参加して

## 第一分科会

「新たな時代の保育実践」すべての子どもに向けて」のテーマで、新たな時代の保育とはどんな保育なのだろうかと興味をもって三園の実践報告を聞きました。様々なメディアやAIが溢れ、コロナ禍の影響で実体験が減少し、人間関係の希薄が危惧されるなど、現在の子どもたちを取り巻く環境は変化をしています。

「かもしれない保育」と名付けて前向きに保育を進めていった実践は、失敗という感覚はなく常に「かもしれない」と職員間ですり合わせていき、前向きに保育を楽しんだ様子が見えました。

どの実践も職員間での話し合いや保育の語り合いの時間を大切にしていました。WEB図が保育計画に活用されていることを知り大変参考になりました。

初生保育園 竹下 敬子

## 第二分科会

「配慮を必要とする子どもや、家庭への支援に向けて」というテーマで各園の発表を聞かせていただきました。

特に睡眠について興味深いお話を聞くことができました。コロナ禍を通じ、乳幼児期の

基本的な生活習慣を身につけることが大切だと感じていたので、とても勉強になりました。配慮を必要とする子どもの増加が指摘されまた保護者自身が生活面など何らかの問題をもち子育てに困難が生じるケースも増えていると言われます。

香野先生のお話の中で、保護者支援は保護者が育つために行うもの、生涯発達に寄り添いお手伝いする仕事という言葉が印象に残りました。

子ども達のために、自分たちが出来ることを話し合い、実践していきたいと思えます。

函南さくら保育園 高村 亜矢子

## 第三分科会

「保育者の資質の向上」と「保育現場の魅力を発信する」という保育を営んでいく上で大きな両輪と、保育現場にある大きな課題について学びました。

子どもたちが日々活発に遊ぶことができるのは、保育者が生き生きと楽しく明るく働くことが大前提です。それには、働きやすい環境が何より大切です。

保育者の言葉に耳を傾け、どうしたら膨大な職員の仕事を軽減できるのだろうか、各園がしている試行錯誤を感じとることが出来ました。

保育現場の魅力の発信では、これからを担う次世代育成の提案に共感しました。又、発信の実態把握から「理解してもらええる発信」の具体的な実践を学べました。

職員一人ひとりの頑張りを認め合い、協働の楽しさを大切にしながら、時代にあったITCを取り入れていくことで、保育者のモチベーションが高まり、質の高い保育者集団に成長していければと思います。

静岡市立和田島こども園 後藤 美佐子

## 第四分科会

それぞれの園がコロナ禍にも負けずに、長い間の活動をまとめて発表してくださいました。

親の悩みや思いをきちんと受け止め発信している報告や、母子で子育てセンターに来ていただき、母子ともに健康で楽しく過ごせるように、それぞれの園が日々工夫し、努力をしている様子がよくわかりました。

新型コロナウイルスが五類に変わった現在、今以上に地域に向けて積極的に発信し、多くの親子が行ってみようと思えるような場所作りが大切だと思います。

何十年も前から取り組んでいる地域や、始まったばかりの地域と、出発は様々ですが、各市や町で子育て支援センターがますます発展し、地域に根差した住み良い場所に定着する事を信じています。

みらいこども園 高橋 さと江

## 第五分科会

令和五年四月に、こども家庭庁が設置され『こどもまんなか社会』の推進に向けて動き出しました。こども園においても、今まで以上に地域の子育て世帯に対する取り組みの重要性を感じています。

アフターコロナの活動として、地域の方々に園を知っていただく機会を増やし、関係機関との連携を強化していくことで、子育て世帯への応援団を増やしているところです。

今回の研究発表を聞く中で、新たな関係構築のヒントをたくさんいただきました。

今後とも行政と共に、地域に根差した子育て支援の拠点としての役割が果たせるよう、開かれたこども園運営に取り組んでいきたいと思えます。

静岡市立上土こども園 杉山 真紀

## 第六分科会

今回の研究発表を聞いて、食育のすばらしさを改めて感じる事が出来ました。

大人が決めたレールに乗るのではなく、子ども自身がどうしたいのか、主体性を尊重しながら活動をしていくこと、見守ることの大切さも学びました。

また、子ども達のことをよく見て、どうやったら子ども達が興味を持ってくれるのか、その背景を踏まえたくらうで考える事も素敵だなと思えました。

地域や家庭との連携の中で、信頼関係を築き、その中で貴重な経験をすることで、挨拶・感謝・達成感などを体験し、成長に繋がっていくと感じました。

発表を聞き、とても勉強になりました。

焼津南保育園 吉永 早耶香

## 第七分科会

「保育の社会化」をテーマに、各地域を代表する発表を聴講させていただきました。地域性それを取り巻くソフトとハードの両面・園として何を大事にしていきたいかによっても、保育の営みは様々であることが理解できました。

地域の交流では、歴史や文化の継承を通して地域との連携を図り、共に同じ時間を過ごすことはとても重要です。地域との連携体があったり。多くの方達と共に向き合い、より子どもたちの為にと大事にしていることを大変羨ましく思いました。

園としては、日々地域社会に対して「発信の仕方」はどのようにするのがベストなのか」と考えがちですが、保護者が安心してくださることが前提なのではないかという思いを感じました。今後子ども達の気持ちに寄り添い、地域と子どもたちにしてあげられる事は何か、どのように発信したらよりよく伝わるかを引き続き考えていきたいです。

中泉保育園 伊藤 夫美

## 第八分科会

分科会テーマに沿った公立保育園・所の特色ある取り組みの発表の中で、配慮が必要な子が多くなってきた今、各園で特別支援に関する内容がありました。

遊びの中で「ムーブメント」という方法を用いたり、地域の児童発達支援事業所と連携を取り、職員の研修や育成を進めていたり、とても参考になるものでした。支援計画を作成する際も、クラスのリーダーが集まり、園独自の現状把握表を用いて、必要な子全員について話し合っているなど、取り組み方や考え方を学ぶこともできました。

どの園も職員間の風通しがよく、協力的体制もできていることで、職場環境の大切さも感じました。

清水町立南保育所 小野 善子



# 令和五年度 新規採用予定職員研修会

## 東部支部

月 日 令和六年二月二十七～二十八日

会 場 三島市箱根の里少年自然の家

参加者 二九名

令和五年度の新規採用予定職員研修会はコロナ禍後初の宿泊研修にて一泊二日の日程で行いました。

開会式の後、班毎で役割分担を決めました。その後、野外活動として、「戸外で楽しみ感性を育てよう」ということで、実行委員が中心となって各班ごとに炊事場での飯盒炊飯を行いました。小刀を使い箸を作る人、火を起こす人、カレーの下ごしらえをする人、それぞれの係に分かれ、力を合わせて行いました。各々が協力し合い、班全体でひとつのことを行うことで、研修生同士のコミュニケーションやチームワークを深めることができました。

一日目の午後の講義は「社会人として一番大切なこと」～人間関係と服務接遇～と題してアップハート代表勝又ひで子先生より接遇とマナーの基本を教えてくださいました。

夕食の後、班交流として「現場からのアドバイス」ということでグループディスカッションを行いました。これから社会人として就

職する研修生たちからは様々な意見や質問が出されました。実行委員グループもあり、研修生たちの様々な意見や実行委員の先生たちならではの意見も出され、大いに盛り上がり、コミュニケーションを深めることができました。

二日目の午前の講義は「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」～最近のネット・ケータイ・スマホ～と題し、NPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所代表長澤弘子先生よりお話をいただきました。SNSを利用する時の便利な点や注意点、想像を膨らませ、勢いだけでは決しないこと、社会人として責任ある立場になるということをわかりやすく教えていただきました。

午後の講義では「保育園・こども園にとって一番大切なこと」～保育所・認定こども園の使命と役割～を静岡県保育連合会会長土山雅之先生より、次に、「あなたにとって一番大切なこと」～保育者の使命と役割～を静岡県保育士会会長吉川慶子先生よりお話ししていただきました。保育園、そしてこども園、さらに保育者の使命と役割、施設職員としての基礎知識を教えてくださいました。

コロナ禍で過ごしてきた数年間、園や学校では様々な生活の変化がありました。人と人とのコミュニケーションがとりづらかった部分もある中で、今回の宿泊研修ができたこと

は、研修生、実行委員も含めた中で意義のある研修になったのではないかと思います。保育園・こども園の職員になるということの心構えや知識を身に着ける研修であるとともに同じ保育に携わる仕事に就く仲間として共に研鑽を積んでいくことができればと思います。実行委員長として大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



実行委員長 恵明キッズサクラビレッジ

杉村太陽

## 中部支部

月日 令和六年二月十四日～十五日

会場 焼津青少年の家  
参加者 七十名

今年度も焼津青少年の家にて、一泊二日の日程での研修を行うことができました。

焼津駅に集まった研修生達は少し緊張した面持ちでしたが、挨拶も初々しくバスに乗り込みました。焼津青少年の家に着くと直ぐに入所式です。県保連中部支部長の北山茂氏の「元氣ですか!？」から始まり青少年の家所員さんからのオリエンテーション、研修生決意表明へと続いていきました。

予定が変更となり、講義二の県保育士会会長 吉川慶子氏からの講義になりました。一〇時二〇分から「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、子どもの権利条約等について講義して頂きました。

引続き十一時十五分より県保育連会会長の土山雅之氏より講義「保育所・こども園等の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命について講義して頂きました。

講義を聞いている間もそうですがこの研修の間研修生は班別に行動しています。昼食も食堂で班別に頂き、片付けまで行います。

昼食後の小休止の後、一三時より午後の講

義が始まり、明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導が行われ、現場ですぐに使える手遊びやグループに分かれての体を動かした遊びに取り組み、研修生たちは笑顔いっぱいでした。

実技指導後、以前この研修に参加し現在、就職三年目、焼津市さくら保育園の村松叶海さんと就職四年目、有度十七夜山保育園の内田沙英さんお二人に新米保育士から今までの体験談や思いを聞かせて頂きました。

この後、例年全員でチャレンジラリーを行います。今年度から一から五班と六から一〇班に分かれ二部制で行うことにしました。片方が野外（雨天は体育館）でチャレンジラリーを行っている間、もう片方は室内で「現場からのアドバイス」を行うことにしました。チャレンジラリーは各班六つのゲームを速さと正確性を両立し時間内にクリアしながら合計得点を競い合います。現場からのアドバイスは生活指導係（実行委員の園長・主任）が各班に付き講義を聞



いて思ったこと・現場に入る前に不安に思っていること云々を一緒に話し丁寧なアドバイスをして頂きました。二部制で行ったおかげで夕食後の入浴や反省会議等がゆとりを持って行うことが出来ました。

二日目は、七時一〇分からの朝のつどい（各班スピーチやラジオ体操）を行い。朝食、記念写真撮影を行いました。

九時より講義三の「子どもと絵本」というテーマで駿河こどものとも社高林快晴氏より絵本の楽しみ方を話して頂きました。

昼食、部屋の片づけの後、講義四は一三時より土方良子氏より「保育者としてのあり方」～服務接遇～についてお話を頂きました。研修生一人ひとりが自信を持って現場に出ている指導を頂けたと思います。

閉講式では県保連中部支部長の北山茂氏より研修生へのエールが送られ終了しました。バスで帰っていく研修生との別れが少し寂しく感じました。

終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様



## 西部支部

月 日 令和六年二月二十一日～二十二日  
場 所 三ヶ日青年の家  
参加者 九十四名

三ヶ日青年の家にて一泊二日の日程で開催となりました。

講義Ⅰでは静岡県保育士会の野中徹副会長より「保育者としての自覚と責務」というテーマで講義をして頂きました。子どもの育ちを支えるために、保育者の質と保育者自身の人間性の大切さについてご講義頂きました。「倫理観や人間性を高める方法」として大谷翔平選手が高校生時代に使った目標達成シート（マンダラシート）を例に出し、保育者が専門性を発揮するためには、いかに人間性を高められるかが重要であることを学びました。

講義Ⅱでは静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園の役割と使命」というテーマで講義を頂きました。急激に進む少子化に伴う定員割れ問題や「誰でも通園制度」などの保育情勢についてわかりやすく解説して頂きました。

に協力いただいたおかげで新規採用予定者研修会が今年度も無事に終了できましたことを感謝申し上げます。  
副委員長 有度十七夜山保育園 笠井友泰

また、講義の中ではスキシップの重要性に触れ、「新しい生活様式」の中でも子どもの成長発達にスキシップは必要不可欠であることを改めて学ぶ機会となりました。

午後は恒例となっている施設周辺のウォークラリーを行う予定でしたが、天候不良により室内でグループワークを行いました。これまでの新規採用予定職員研修会では室内でグループ活動を実施した実績が無く、研修のねらいでもある受講生同士の親睦を図ることができるか心配はありましたが、ゲームや課題をクリアしていく過程で受講生同士が十分に親睦を図ることができました。

夜には講義Ⅲとして「子どもと絵本をひらくとき」をテーマに浜松こどものとも社安田友昭氏より講義をして頂きました。具体的な絵本の選び方や活用方法などを学びました。

また、絵本を繰り返し楽しむことで得た絵本の世界での体験が子ども自身の経験となることを学びました。

二日目午前の「現場からのアドバイス」では各班に分かれ、保育者として働くにあたり感じている心配や不安を相談し、より実践を踏まえた意見交換から四月から勤務する準備が整えられたのではないかなと思います。

講義Ⅳでは「社会人として一番大切なこと」

「人間関係と含む接遇」というテーマで（有）アップハートの勝又ひでこ氏より講義を頂きました。社会人としての基本的なマナーは保育者としての信頼へと繋がることを学びました。

講義Ⅴでは「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性」をテーマに浜松子どもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏に講義を頂きました。社会人として園に所属している背景を自覚しSNSによる発信の必要性や利用については想像力を働かせることが大切だと学びました。

天候不良で本来予定していた講義内容を変更することになり運営が難しい点がありましたが、皆様方のご協力により無事研修会を終えたことに感謝申し上げます。

実行委員長 豊田みなみ保育園 宮城翔太



# 海外交流研修に参加して

ベトナム 令和六年六月二日～六日

認定こども園岩松保育園

佐野 加奈

六月二日まだ外が薄暗い朝、宿泊ホテルを出発し、中部国際空港へ向かいました。期待と緊張を抱え、ベトナム空港に向けて飛び立ちました。上空から見たベトナムの景色は、自然の緑色とバッチャン焼きで出来た瓦屋根の朱色が美しく、目が離せませんでした。初めてベトナムに降り立った時の暑さ、香り、日本とは違う空気感はとても印象的で、今でも鮮明に覚えています。

今回の研修では、TUBAKI KINDERGARTENと桜モンテッソーリ「子供の家」の二か所を視察させていただきました。どちらも、現地の子に混ざり日本人の子どもも通園している園でした。ベトナムの学校年度は九月から翌年の五月までなので六月から八月いっぱいまでが夏休みになります。私達が訪問した時は丁度夏休みと重なっていたので、登園している子どもの数も職員の数も通常より少ないとのことでした。

社会主義国家であるベトナムでは、規制や基準が厳しく保育の進め方が難しいようですが、教育省のガイドラインに従いながら独自の教育も取り入れているようでした。地域や園によっての教育格差がまだまだあるようですが、視察させていただいた二園では出来る

だけ良い教育をと、分刻みでの活動や課外教育なども行っていました。ベトナムの教育現場は今、日本が何十年と掛けてやってきたものを三倍くらいの速さで進んでいる為、親が経験してきていないことを子どもが経験していることも多く、親からの理解を得ることも特に大事な作業である、とのお話がありました。

園庭には、大型の遊具や固定遊具があり、広場のような場所で保育者と一緒に集団遊びを楽しむ姿が見られました。砂場は砂浜のようにな白くサラサラとした砂で、日本のように泥団子を作ったりすることはなく感触を味わうことがメインであるという事に驚きました。保育室内はコーナー分けがされていて、子どもが選んで遊べる環境となっていました。

TUBAKI KINDERGARTENでは毎日絵本を読む時間があり、日本の絵本も読まれていると聞き、親近感を感じて嬉しくなりました。日本の保育しか知らなかった私は、国によって違う教育の考え方を知り驚きの連続でした。しかし、どこの国でも子どもを大切にする気持ちや愛情、情熱を持って教育・保育に向かう姿勢は共通していると感じた時間でもありました。

園視察以外では、ホーチミン廟、分廟、一柱寺等の寺院をはじめ、ナイトマーケット、ハロン湾や鍾乳洞、ロットタワー、日本橋など、ハノイ・ダナン・ホイアンの様々な観光地へ行くことが出来ました。各所で感じるベトナムの自由な国民性や文化の違い、自然あ

ふれる場所と発展地の景色の違いなどがとても面白く、童心に帰ったように胸が躍りました。「異文化に触れるってこんなに面白いんだ!!」と感じ、自分の中の世界が広がったように思いました。

新型コロナウイルスの影響によりしばらく中止されていた海外交流研修ですが、再開されたこの年に参加させていただき、また沢山の素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。この研修に参加していなければ出会う事が出来なかった先生方と出会い、色々なお話が出来た事、共にたくさん経験が出来た事、その全てが私にとってかけがえのない財産となりました。

本研修を企画、運営してくださった海外交流委員の皆様、そして、快く送り出してくれた自園の先生方に、心より感謝申し上げます。



# 新規採用職員研修会

期日 令和六年五月三十日(木)三十一日(金)  
会場 静岡県総合社会福祉会館  
参加者 八十名

新規採用職員を対象に、保育施設に勤務する職員としての態度と心構えの自覚を高め、職場への円滑な適応を図るための研修が二日間にわたり六講義開催されました。

## 一日目

講義① 「保育所・こども園等の使命と役割」

県保運会長 土山雅之氏

講義② 「保育者の使命と役割」

県保育士会長 吉川慶子氏

講義③ 「新人保育士の責任とプライド」

小田原短期大学

名誉学長・教授 小沼 肇氏



講義④ 「SNS利用時の倫理的判断と行動の重要性について」

重要性について

NPO法人浜松どもとメディアアアシ

研究所代表

長澤弘子氏

## 二日目

講義⑤ 「子どもと絵本」

駿河子どものとも社 高林快晴氏

講義⑥ 「保育者としてのあり方」

コーチングネットワーク静岡代表

土方良子氏

二日間の六講義では、グループに分かれて



新規採用者同士の意見交換をする時間が多く設けられました。グループになる度に、自分で考えたり相手の話に耳を傾けたりして、与えられたテーマについて和やかな雰囲気の中で意見交換することができました。

またグループの中には、自らグループ討議の進行役を務める人がいたり、発言の少ない人に言葉を投げかける人がいたり、主体的にグループ討議を進めることができていました。参加された職員は、今回の研修を今後の保育に活かして専門職としての誇りを持って臨んでほしいと思います。

# 青年部全体集会・研修会

期日 令和六年五月二十四日(金)  
会場 静岡音楽館AOI 講堂

今年度の青年部全体集会と合同研修会は

久しぶりの静岡音楽館AOI講堂で開催しました。全体集会では、保育連合会会長の土山雅之先生より、今後の保育業界についてや青年部の成り立ちについてのお話、青年部員にむけてのメールをいただきました。また青年部会長の後藤先生からは、「誰でも通園制度や保育のDX化についてのお話や「持続可能な組織として皆さんと一緒につくっていきたい」「サードプレイス」という考えのもと職場でも家庭



でもない第三の場所をつくっていききたい等のお話がありました。

また今年度の全体集会後の合同研修会では

「災害子どもたちを一人も死なせないため

に」をテーマに講師に日弁連災害復興支援委

員会副委員長で弁護士の永野海先生にご登壇いただきお話していただきました。

今回の合同研修会では、これまで受けた災



害研修とは少し違い実際に肌で感じた生の印象や経緯またそれらを決して無駄にしない生きる災害研修として、普段から使えるまた、再確認できる内容でした。本当に

二時間があつという間に過ぎていき、一刻も早く園に戻って再確認したいと思う内容でもありました。講師の永野先生は東日本大震災の折、実際に現地に赴き、被災者の方から貴重な体験談や実際の現場を見ることで、その時何が起きたのか？どうすれば良かったのかを考える事により、後世に繋げていくそんなお話もしていただきました。災害時に速やかに繋がり連絡のとれるプロセス、訓練などの重要性、災害時に園と行政そして地域との有効な繋がり連携するそのための努力を継続する必要があります。最後に災害が情熱とやさしさを感じました。

起こった時何よりも、園としてこどもの命を守ることを最優先事項として、園にある防災計画や災害時の行動等を今一度再確認し、少しでも行動できるように心がけていきたく感じました。



## 部会報告

部会長 すみれ認定こども園 後藤恭佑

今年度も青年部会の活動も活発になっていきます。情報過多の時代でも何が大事で今どんなことが起きているのかを敏感にとらえ、皆さんと共有できればと思っております。引き続き会員の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

●実績報告 七月十九日

○令和六年度 青年部公開保育（東部支部）

八月二日

○令和六年度 男性職員交流研修会

（西部支部）

# 鈴木康友新知事と県保連役員が懇談

去る七月八日、新しく静岡県知事に就任された、鈴木康友知事と県保連役員が親しく懇談を持たせていただきました。今回は、知事から県内の保育事情を聞いてみたいとのことで声がかかり、各職業界団体との面会としては異例の形での懇談になりました。懇談した



のは、県保連側は土山会長と青野副会長、北山副会長、岡田副会長、そして保育士会会長の吉川副会長、島村事務局局長の六名でした。県側は、青山健康福祉部長、高橋健康福祉部長、松本子ども未来課長の三名が同席されました。

知事室に入室すると、鈴木知事は、我々を笑顔で迎えてくださり、気さくな態度で接してくださいました。

冒頭に、土山会長から県保連の概略をお話しさせていただきました。現在会員園は六五一ヶ園、県内の保育園、保育園由来の子ども園の九八%が所属していること、活動としては、研修会の実施、保育施策の情報伝達、県子ども未来課と一緒に県内の保育の充実を図っていることなどをお伝えしました。特に県からの委託を受けてキャリアアップ研修を実施して保育者のスキルアップを図り子どもの成長発達を促していること、出生数が少ないからこそ、一人一人の育ちが重要になっており、そのためには保育者のスキルアップが欠かせないことをお伝えさせていただきました。

さらに保育士の確保は喫緊の課題でありますが、保育士志望の若者が減少し、保育士養成校も定員割れを起こし、保育士のなり手が

不足している現実に直面しており、さらに仕事の大変さ、責任の重さに対して保育士の処遇が低すぎることで、保育士離れが起こっている可能性があるということもお話ししました。特に、県内で発生した一昨年の事故事件によって、保育現場の過酷さばかりが報道に取り上げられ、保育現場のイメージが悪い方へと傾いてしまったことは本当に残念なことであり、実際は一人一人の保育者が子どものために思い日々奮闘していることをマスコミも取り上げて欲しいし、鈴木知事にもご理解いただきたいことを伝えました。

国は今年度より四・五歳児の保育士定数を二五対一に改め、来年以降に一歳児を五対一に改正することを表明していますが、静岡県は県独自の補助金により既に一歳児の五対一は実現され、県内の保育所ではそれ以上の人手をかけて一歳児の保育を展開しているの、国の制度が五対一になっても、県の補助金はそのまま継続していただきたいことを強くお願いしました。

鈴木知事は少子化については大変なことになるし、なんとかしなければならぬ。子育てについてはできる限り援助していきたいとおっしゃってくださいました。

驚いたことに、鈴木知事のお母様は保育士をしていて、最後は養成校の教員になったこととお話いただきました。私たちとの意外な接点に驚きましたが、知事にとって身近であった世界でしょうから、きっと私たちに共感してくださるだろうと期待します。

# 各支部だより

## 東部支部

支部長 中里保育園 青野貴芳

### 一、総会及び施設長研修会

期日 令和六年五月十六日(木)  
会場 プラサヴェルデコンベンションホールB  
講師 國光宏尚氏 (Thirdiverse代表CEO)

### 二、中堅保育者研修会

期日 令和六年八月二十七日～二十八日  
会場 箱根の里・プラサヴェルデ402  
講師 小野博文氏 (スマイルワン代表)  
講師 川村結里子氏 (ベップトーク普及協会)  
講師 小林快晴氏 (株駿河こどものとも社)  
講師 奥澤晶子氏 (東部児童相談所長)  
講師 加藤聖司氏 (沼津市みくに保育園長)

### 三、青年部企画研修会(公開保育)

期日 令和六年七月十九日(金)  
会場 三島ようらん保育園

### 四、保育の日研修会

期日 令和六年十月十九日(土)  
会場 富士市ロゼシアター  
講師 軽部真一氏 (フジテレビアナウンサー)  
十鳥勉氏 (マリリンバ演奏)

### 五、職員研修会(リモート研修)

期日 令和七年一月二十二日・二十三日

### 六、民間部会施設視察研修会

期日 令和七年一月二十三日～二十四日

### 七、新規採用職員研修会

期日 令和七年二月二十七日～二十八日  
会場 富士市フジスパーク・講師 未定

### 八、行政部会

未定

## 中部支部

支部長 なかよし保育園 北山茂

### 一、総会及び施設長研修会

期日 令和六年四月二十六日(金)  
会場 静岡県総合社会福祉会館  
講師 家族・保育デザイン研究所  
代表理事 汐見稔幸氏

テーマ 「アフターコロナ時代の保育園とこども園」

### 二、職員研修会

期日 令和六年六月二十八日(金)  
会場 静岡科学館るくる・シズヴェル  
講師 静岡福祉大学教授 坂田尚子氏  
テーマ 「五感を磨き、高い感性の保育者を目指して」

### 三、中堅保育者研修会

期日 令和六年九月十一日(水)  
会場 静岡県総合社会福祉会館  
講師 (株)多聞 社長 島村仗志氏

### 四、フォロワーアップ研修会

期日 令和六年十月二十九日(火)  
会場 静岡県総合社会福祉会館  
講師 コーチングネットワーク静岡  
代表 土方良子氏

### 五、新規採用予定職員研修会

期日 令和七年二月十八日～十九日  
会場 焼津青少年の家

## 西部支部

支部長 ルンビニこども園 岡田泰稔

### 一、総会及び施設長研修会

期日 令和六年五月十五日(水)  
会場 アクトシテイ浜松  
講師 弁護士法人あおば法律事務所  
弁護士 上田敏喜氏

テーマ 「不適切保育に対するリスクマネージメントー風通しのよい職場作りー」

### 二、中堅職員研修会

期日 令和六年六月十八日(火)  
会場 アクトシテイ浜松  
講師 一般社団法人子ども青少年育成支援協会代表理事 村中直人氏  
テーマ 「『叱る依存』の理解と対応ー保育の質を高める基礎リテラシーとして」

### 三、男性職員交流研修会

期日 令和六年八月二日(金)  
会場 クリエート浜松  
講師 (有)きのいい羊達 須田裕之氏  
兵藤達也氏

テーマ 「子どもの笑顔を引き出す運動遊び」

### 四、小児医療研修会

未定

### 五、初任職員研修会

未定

### 六、新規採用予定職員研修会

期日 令和七年二月十三～十四日  
会場 三ヶ日青年の家

～活動の報告と計画～

研修委員会

委員長 桜木こどもの森 岡田博次

今年度も、保育の質の向上と園の「これから」を考える一助になるべく、充実した研修計画を進めて参りますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

新採研修（五月）では、約八十名の参加者が、保育士（所）の使命と役割、SNS利用時の倫理的判断、接遇等について学びました。所長研修会には、吉田学氏（日本保育協会・理事長）をお招きし、子どもを取り巻く現状と今後我々が取り組むべき内容について具体的に講義いただきました。

育児相談研修会では、本年度も有沢考治氏（東海大学・教授）をお招きし、保護者支援について理論と実践を学びました。

年度内に計画中の研修会は次の通りです。

- 民間園長研修会（十一月二十・二十一日）
- 施設長研修会（十二月二十日）
- 新規採用予定職員研修会（二月・各支部）

予算対策委員会

委員長 中里保育園 青野貴芳

周知の通り、今年度から国は配置基準改善の方向に動き出しました。とはいえ、四・五歳児の場合、条件つきでの加算対応にとどまり、

加算要件となる配置の改善幅は僅かで、依然として十分ではありません。一・二歳児の配置改善は早期の実施が見込まれますが、それに合わせて県や市町の補助がなくならなることがないよう注視していく必要があります。

このように、配置基準の改善は、更に進めていく必要があるのです。この点を中心に、新たに不適切保育への対応に関する項目を加えて九項目を静岡県に要望します。

- ①職員配置基準について、特に、(1)四・五歳児の配置基準(2)乳幼児保育事業の充実について(3)開所時間や利用児童数に対する配置基準(4)調理員の配置基準(5)延長保育事業への補助について(6)「気になる子」の増加、の観点から改善を要望します。
- ②キャリアアップ研修受講定員数の増加について要望します。
- ③園児数の減少、定員割れへの対応について要望します。
- ④物価高騰への対応について要望します。
- ⑤保育士確保及び定着促進のための環境改善支援策を要望します。
- ⑥年度途中入所サポート事業の継続について要望します。
- ⑦南海トラフ地震等大震災に対する安心・安全な施設の充実が図られるよう要望します。
- ⑧産休等代替職員雇上事業の補助基準額の増額について要望します。
- ⑨不適切保育等事案が発生した際の対応ガイドラインの選定や第三者委員の候補リスト作成を要望します。

保育のしおり編集委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

「こども家庭庁」の発足、「子ども基本法」の施行など保育を取り巻く社会制度が大きく変わってきました。これを受け「保育のしおり」を六年ぶりに改定することになりました。

この六年の間に静岡県保育連合会の一般社団法人化の実施、県保育士会所属地区保育士会の編成の見直しなどが行われ、改めて県内会員保育施設を取り巻く状況も変化してきています。

前回の改定では保育所保育指針の改定に合わせて見直しを行いました。今回の改定では法規等についても見やすく活用しやすい物になるよう編集作業を進めています。

また、保育の質が改めて問われる時代に即した内容になるよう委員一同作業に努めていきたいと思っております。

キャリアアップ委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

令和六年度の静岡県保育士等キャリアアップ研修会は昨年度の募集人員をeラーニングも含め五〇〇名増の受入れを確保し実施します。昨年度との大きな違いは参加費の徴収です。会員各位におかれましてはご負担が大き

くなるところではありますがご理解をいただきたくお願いいたします。

毎年、定員を上回る申し込みで多くの方が受講不可となっている現状もあります。受講決定を受けながら全欠席（キャンセル）も昨年度で一四〇名を超えました。多くの方が受講できるような申込時には受講が確実に可能な方を申し込み等ご配慮いただけますようお願いいたします。県保連主催のeラーニングも併せて実施する予定です。

受講された皆様が本来の目的である保育の質の向上につながる研修効果が得られるよう計画させていただきました。引き続きご理解とご協力よろしくお願いいたします。

### 実習受入マニュアル作成委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

保育士養成課程の中核をなす保育実習の目的は半世紀以上変更されていません。一方で、保育実習を取り巻く環境は大きく変化し続け、それに合わせて保育実習実施基準は度々改正されています。しかしながら実習受入施設たる保育所等では、一部の例外を除けば、担当者の経験則に依存した実習指導が続けられてきた経緯があります。

養成施設では近年「座学と実学の往還」をスローガンに新たな取り組みが次々と導入さ

れています。静岡県保育連合会としても抜本的なアップデートが必須と捉え、この委員会が立ち上げられました。

去る七月九日、第一回委員会が開催され、委員会の運営方針とマニュアルの作成方針が議論されました。九月に開催予定の第二回は、常葉大学保育学部・保育学科長の柴田賢一教授をスパーバイザーに迎え、本格的な編集作業に入ります。年度内の完成を目指し、計四回程度の委員会開催を予定しています。

### 海外交流委員会

委員長 原町保育園 鶴谷由美子

本年度で第二十六回目となった海外交流研修は、六月二日から六日までの五日間、二十八名で「ベトナム」の保育施設へ視察に行ってきました。実に五年ぶりの海外研修、参加者みんながワクワクしていたように感じました。視察施設先はハノイ市内にある「桜モンテッソーリ子供の家」と「TSUBAKI KINDERGARTEN」を訪問し、保育施設の見学、保育内容や保育制度について意見交換等行い有意義な時間を過ごせました。また今現在の「ベトナム」情勢についても少しですが伺うことができ、これから発展していく国なのだと思います。施設を視察することが

一番の目的ですが、町の様子や人々の生活を見ながら五感で感じたことは帰国してからより自国を見つめ直すきっかけにもなるのだと思います。来年度も引き続き海外交流研修を実施する予定ですので多くの皆さまのご参加を期待しています。

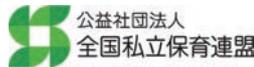
### 少子化対策委員会

委員長 原町保育園 鶴谷由美子

静岡県の皆さまに、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。複数の施設や団体で行う事業であれば、一事業五万円を助成しますので啓発活動にご活用下さい。助成金の申し込みは各支部事務局となります。

昨年度も東部・中部・西部でこの助成金を活用した地域子育て活動の展開を推進していただきました。また、財源となります協力金へのご支援を賜りまして感謝申し上げます。本年度も啓発品として「あいあいホットマーク」のクリアファイル、ピンバッチ、付箋などがあります。クリアファイルはデザインも一新しておりますので昨年同様皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

# [全私保連推奨] 各種団体保険制度



## ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間 (中途加入可能)



「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険 (学校契約団体傷害保険)」「職員団体傷害保険 (総合生活保険)」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

## やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間 (中途加入可能)



社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

## えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新 (中途加入可能)



「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育児費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

## しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新 (中途加入可能)



24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱  
代理店

### 有限会社ゼンポ

TEL: 03-3865-3881  
FAX: 03-3865-2806



引受  
保険会社

### 東京海上日動火災保険株式会社

担当課社: 公務二部 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

この案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険 (レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険)・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険 (傷害保険) の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款になりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

## 有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881  
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨 (総代理店)



「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・追加料金一切なし

すべての機能使い放題 /

月額 5,500円 (税込) のみ

**無料体験実施中!**



お申し込みは  
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に

きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886

# 印刷物からノベルティまで

## おまかせください。

チラシ

パンフレット

冊子

メモ帳

ふせん

カレンダー

紙加工品のことなら**大日三協**へ

大日三協は、FSC 森林認証 (COC 認証) を取得し、森林認証紙の取り扱いをしています。



**大日三協株式会社** 静岡県静岡市葵区流通センター12 番1号  
TEL:054-265-5501 FAX:054-265-5502

## しずおか保育士・保育所支援センター

静岡県・静岡市  
委託事業

保育の仕事がしたい方と  
人材を求めている保育所等との橋渡しをします

すべて無料で利用できます！

- ・各種相談（採用、労務等）
- ・事業所、求人登録
- ・求職者の紹介
- ・就職フェアへの出展 等



2018～2023年の  
就職者数 **637名**

多くの方に採用活動・就職活動のパートナーとして、当センターを選んでいただいています。丁寧なマッチングが私たちの強みです。



事業所登録はこちら♪

**福祉のお仕事**

保育のお仕事をお探しの方はこちら！

検索方法

福祉のお仕事 トップページ ▶ 求人を出す を選択・クリック

<https://www.fukushi-work.jp/>



STEP1

「福祉のお仕事」から  
事業所登録

STEP2

求人票を  
作成

STEP3

しずおか保育士・保育所支援センターが、  
求職者に求人のご案内をします!!

「福祉のお仕事」  
ホームページ

## お問い合わせ

福祉人材無料職業紹介所  
厚生労働大臣許可



社会福祉  
法人

**静岡県社会福祉協議会**

中西部

静岡県社会福祉人材センター  
しずおか保育士・保育所支援センター  
TEL: 054-271-2110

住所: 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70  
静岡県総合社会福祉会館 シズウエル 3階  
開所: 月～金曜日 (8:30～17:00) ※祝日除く

東部

静岡県社会福祉人材センター東部支所  
TEL: 055-952-2942

住所: 〒410-0801 沼津市大手町1-1-3  
沼津産業ビル2階  
開所: 月～金曜日 (8:30～12:00/13:00～17:00) ※祝日除く



さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ [www.tobutoptours.co.jp](http://www.tobutoptours.co.jp)



“Warm Heart”  
～ありがとうの連鎖を～



東武  
トップ  
ツアーズ

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F

TEL.050-9001-9697 FAX.054-252-9509

OA機器・システム商品・オフィス家具

経費削減のお手伝い

見積・相談無料



株式会社 Net



Net 沼津

検索

TEL 055-939-6100

沼津市米山町 12-15

PAL ANGEL  
園児支援システム

子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム

「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です！

園の紹介、情報公開は簡単便利な  
ホームページで！  
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が  
園のパソコンで簡単に更新できます！

簡単操作のメール配信システム  
低価格で多機能！  
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲  
覧状況、受信状況も把握できます！



株式  
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2  
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp

# 『キッズガード』 (園児総合保障制度 (こども総合保険))

## AIG損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“おまもり”として本制度をお届けいたしております。

静岡支店 〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1  
AIG静岡ビル5階

Tel : 054-255-5141

浜松支店 〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2  
浜松アクタワー15階

Tel : 053-454-0321

沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町2-10-14

Tel : 055-963-8081

S-240663(202408)

未来は、あそびの中に。



JAKUETS



### 編集後記

欲しいものがある時だけ、パパ大好きと娘が言ってくれます。普段は塩対応です。

静岡市 ほのぼの保育園 坂井玄気

パリ五輪開催中！酷暑の中、保育に携わるすべての皆様も金メダル級の活躍ですすよね

島田市認定こども園 エルフのゆめ

平野貴久

暑さに負けずに、冷静沈着・かつ熱く頑張っていきたいです。よろしくお願ひします。

静岡市 麻華こども園 中原美華

夏の高校野球は、浜松球場・掛川球場に幾度か足を運び腕は真っ黒に。祝掛西！甲子園開幕。頑張れ高校球児！頑張れ保育士！！

磐田市 中泉保育園 伊藤夫美

夏の暑さに負けることも、あるので上手に付き合って、行きたいです。

富士市 すみれ認定こども園 後藤恭佑

子どもたちは暑さなど関係なく楽しそうに過ごしていますが大人は・暑さに負けず頑張ります。

御殿場市 すみれこども園 鷹野一広

いつも、子ども達の元気な明るい笑い声が満ち溢れた園をめざしたい。

御殿場市 神山認定こども園 本崎泰人

いつになったら涼しくなるのかな、この記事を読む時は涼しくなっているかな。

静岡市 城北保育園 松田剛

今年も酷暑でした。今号が出る頃には涼しくなっているかな？こどもも保護者も職員も、自分なりに支えられるよう精進していきたいと思っております。

浜松市 まつきのき保育園 竹内映晴

何事も確認が必要だと再確認しました。

湖西市 真愛三ツ谷こども園 松浦弘太郎

今回はあまりお手伝いが出来ず、反省しきりです。次号頑張ります。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明

# 海外交流研修 ベトナム



「ほいく静岡」93号

発行日：令和6年9月25日発行

発行者：一般社団法人静岡県保育連合会

420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館

TEL：054-251-8873 FAX：054-253-4226

印刷所：大日三協(株)